

## 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 10 月 16 日  
東京電力株式会社

## &lt; 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 &gt; (10/16 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9m <sup>3</sup> /h	30.1	102.4 kPa abs	A系： 0.04	vol%
		給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.05	vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m <sup>3</sup> /h	40.8	11.68 kPa g	A系： 0.03	vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04	vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m <sup>3</sup> /h	39.9	0.16 kPa g	A系： 0.08	vol%
		給水系：約 2.0m <sup>3</sup> /h			B系： 0.08	vol%

\*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

- ・H25/10/16 10:09 頃 2号機サブプレッションチェンバ内部の気体が原子炉格納容器ドライウェル側へ移動していることの有無を確認するため、窒素ガスの封入を開始(10/30 まで実施予定)。窒素ガスの封入量は5 Nm<sup>3</sup>/h。今後、サブプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入にあたっては、関連パラメータの監視およびデータ採取を行う。
- ・H25/10/16 15:39 頃 1号機原子炉格納容器内の空調機戻り空気温度に上昇傾向が確認されたことから、原子炉格納容器への窒素封入量を、25Nm<sup>3</sup>/h から 30Nm<sup>3</sup>/h へ変更。

## 【3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況】

- ・H25/10/16 7:51 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ[10/16 7:50 時点]):気温 12.3℃、湿度 96.3%)  
※プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

## &lt; 2. 使用済燃料プールの状況 &gt; (10/16 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.0
2号機	循環冷却システム	運転中	22.5
3号機	循環冷却システム	運転中	21.1
4号機	循環冷却システム	停止中*	29.0

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

- ・H25/10/15～10/16 4号機使用済燃料プール内にある炉内機器を原子炉圧力容器底部へ移動するため、使用済燃料プールゲートを開く予定。本作業に伴い、使用済燃料プール代替冷却システムを停止予定。停止期間中のプール水温度の上昇率は約 0.32℃/h と評価しており、停止期間中のプール水温度上昇率評価値は、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題ない。
- 10/15 17:02～ 4号機使用済燃料プール代替冷却系について、4号機使用済燃料プールの原子炉ウェル側プールゲート開放作業に伴い停止。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 29.0℃。
- 10/16 13:49～ 作業が終了したことから、使用済燃料プール代替冷却系を起動。なお、運転状況については異常なし。使用済燃料プール水温度は冷却停止時の 29℃から 30℃まで上昇。

\*4号機冷却状況を「運転中」と記載しておりましたが、正しくは「停止中」です。お詫びして訂正させていただきます。  
(平成 25 年 10 月 16 日訂正)

### <3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	3号機タービン建屋	10/10 10:20 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋 [ 高温焼却炉建屋 ]）	10/4 10:26 ~ 移送実施中

7/16 13:00～ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエアータンクへ移送を開始。

### <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/16 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	C系ホット試験中

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/8/8 12:55～ 6/15 に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。  
再発防止対策を実施した上で、C系は9/27 にホット試験を開始。A系は10月下旬、B系は11月以降を目処にホット試験を再開予定。

### <5. その他>

・H25/10/9 2号機の取水口スクリーンのシルトフェンス内側および外側において、セシウム134 およびセシウム137 の値が、10/8の分析結果と比較して有意な上昇傾向を確認。

今回の上昇は1, 2号機取水口付近止水対策工事の影響による可能性が考えられるが、これを受けて10/11から1週間を目途に、港湾内5地点(物揚場前、1～4号取水口内北側(東波除堤北側)、2号機スクリーン(シルトフェンス内側)、2, 3号機取水口間、港湾口)のサンプリング頻度を上げてモニタリングを強化。

10/15採取分の5地点の海水のセシウム134、セシウム137、全ベータの測定結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、10/14 に採取した海水のトリチウムの分析結果についても、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

・H25/10/16 5:40 頃 台風接近に伴いCエリア(東)およびCエリア(西)のノッチタンクの水が排出基準\*を満たしているため、排出を開始し、6:30 に終了。

ノッチタンクの水を分析した結果は以下の通り。

<Cエリア(東)>

- ・セシウム134: 検出限界値未満(検出限界値:13 Bq/L)
- ・セシウム137:21 Bq/L
- ・ストロンチウム90:4.3 Bq/L

<Cエリア(西)>

- ・セシウム134: 検出限界値未満(検出限界値:14 Bq/L)
- ・セシウム137: 検出限界値未満(検出限界値:19 Bq/L)
- ・ストロンチウム90:2.7 Bq/L

また、台風の影響により、以下のエリアで堰の水位が上昇しており、堰内の水が排出基準\*を満たしていることから、緊急時の措置として当該堰ドレン弁の開操作または仮設ポンプにより、堰外へ排出。

- ・H8エリア(北):6:55 にドレン弁開により開始
- ・H8エリア(南):6:55 にドレン弁開により開始
- ・Cエリア(東):7:05 に仮設ポンプにより開始
- ・Cエリア(西):7:00 にドレン弁開および仮設ポンプにより開始
- ・H9エリア:7:26 にドレン弁開により開始
- ・H9エリア(西):7:32 にドレン弁開により開始
- ・Eエリア:7:30 にドレン弁開により開始
- ・G3エリア(北):8:56 にドレン弁開により開始
- ・G3エリア(東):8:56 にドレン弁開により開始

なお、G3エアータンクは溶接型であり、多核種除去設備(ALPS)処理後の処理水(セシウムとベータ核種を除去しトリチウムを含むもの)も貯蔵している。パトロール等で漏えいのないことを確認しているが、堰内の水についてセシウムとストロンチウムを分析し、排出基準以下であることを確認。

各エリアの堰内の水の分析結果は以下の通り。

<H8エリア(北)>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:13 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:18 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:9.5 Bq/L

<H8エリア(南)>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:15 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:17 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:6.9 Bq/L

<Cエリア(東)>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:14 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:18 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:2.5 Bq/L

<Cエリア(西)>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:14 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:18 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:2.7 Bq/L

<H9エリア>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:13 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:17 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:4.0 Bq/L

<H9エリア(西)>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:13 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:18 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:3.9 Bq/L

<Eエリア>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:13 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:18 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:4.2 Bq/L

<G3エリア(北)>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:14 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:18 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:0.88 Bq/L

<G3エリア(東)>

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:13 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:17 Bq/L)
- ・ストロンチウム 90:1.0 Bq/L

また、H5エリアおよびH6エリアの堰内の水については、溢水を避けるための緊急避難的措置として、地下貯水槽 No.7(これまで未使用)に移送し、一時的に仮貯蔵。

H6エリアについては、7:30に移送を開始。H5エリア堰内の水の地下貯水槽 No.7への移送について、8:9に消防車による移送を開始。

仮貯蔵した水は、台風通過後に4000<sup>m</sup>3ノッチタンクへ速やかに移送する。念のため、地下貯水槽 No.7のドレン孔および漏えい検知孔で監視強化を行う。

\* 排出基準

- ・セシウム 134:15 Bq/L 未満
- ・セシウム 137:25 Bq/L 未満
- ・その他のガンマ核種が検出されていないこと(天然核種を除く)
- ・ストロンチウム 90:10 Bq/L 未満(簡易測定法により計測)
- ・タンク内の水質等を参考に、他の核種も含めて告示濃度基準を満たすこと

・H25/10/16 5:10 3号機タービン建屋1階松の廊下エリアに設置した建屋内漏えい警報が発生。現場を確認したところ、当該エリアに隣接している廃棄物処理建屋側より当該エリアに水が流れてきていることを確認。当該エリアおよび隣接する廃棄物処理建屋には、現在、建屋内の汚染水を移送する配管は通っていないことから、当該エリアに流れてきている水は雨水と判断。

・H25/10/16 7:47 3号機復水貯蔵タンク(以下、CST)炉注水設備において、「CST原子炉注水設備(10)液位高」警報が発生。当該警報については、CST炉注水設備の配管からの漏えいを検知するため、配管まわりにある管路内に検知器を設置しており、管路内に水が溜まった場合に検知して発報するものである。現場を確認したところ、当該エリアに隣接している廃棄物処理建屋側より流れてきた雨水が、CST炉

注水配管の通る管路(U字溝)に流入し、配管まわりに設置された当該漏えい検知器が動作したものと判断。CST炉注水配管まわりに漏えい等の異常のないこと、および炉注水関連パラメータに異常のないことを確認。なお、流入してきた雨水については、仮設水中ポンプで汲み上げる予定。

- ・H25/10/16 9:28 頃 5号機タービン建屋1階松の廊下エリア(廃棄物処理建屋入口付近)の天井部より水の滴下があることを、現場作業員が確認。現場確認の結果、滴下水はその上方の天井部より滴下しており、天井部の外側は廃棄物処理建屋屋上またはタービン建屋外壁付近であり、滴下箇所付近を通っている配管に異常がないことから、当該滴下水は雨水であると判断。なお、現在、滴下は止まっており、床面の溜まり水については拭き取りを実施。

#### 【H4エリアタンク・B南エリアからの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・10/6 H4エリア I グループ No.5タンクの側板1段目の解体を実施。
- ・10/7 H4エリア I グループ No.5タンクの底板部の解体を実施。

<最新のパトロール実績(10/15)>

- ・高線量当量率箇所( $\beta + \gamma$ 線(70 $\mu$ m線量当量率))は確認されず。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・有意な変動なし。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・10/15 採取分のH4エリア周辺のB排水路のB-1、B-2、B-3地点およびタンク脇側溝の X-2地点については、排水路に水がなくサンプリングができなかった。なお、排水路におけるその他の地点の分析結果については、有意な変動なし。

#### 【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は  
10/16 0:00 時点で約 3,261m<sup>3</sup> \*集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・有意な変動なし。

#### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。

以上